

# プラズマ・核融合学会誌へのご投稿について

和文氏名  
和文所属

The guideline on writing article of the Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

Name in English  
Affiliation in English

原稿受付日: 2022 年 9 月 7 日

## Abstract

研究論文, 研究速報, レビュー論文, 研究・技術ノート, 解説, 講座, 小特集には, 日本語の要旨 (400 字程度, 研究速報の場合は 200 字程度) とキーワード (重要用語, 英語で 5~10 語程度) をつけてください. 研究最前線, 博士論文・修士論文紹介, プロジェクトレビューについては, キーワード (重要用語, 英語で 5~10 語程度) をつけてください.

## Keywords:

英語で 5~10 語程度: plasma, fusion, JSPF, template, guideline

## 1 表題・著者名・所属・要旨・キーワード

本節では, 記事冒頭 (主に 1 ページ目) におけるフォーマットのガイドラインを示します.

### 1.1 表題について

- 表題は実際の内容を表すようにご注意ください.
- 英文表題は和文表題を表すようにしてください.

### 1.2 著者名・所属について

- 著者名, 所属名は正しく記入してください.
- 日本人名の英文表記および外国人著者名は FAMILY First Middle の順 (例 FEYNMAN Richard P.) に記入してください.
- 第一著者の所属とメールアドレスをフッターに記載してください.

### 1.3 要旨について

- 分量は日本語で 400 字程度です.
- 専門外の読者にもわかりやすい文章を心がけてください.

### 1.4 キーワードについて

- 重要用語を英語で 5~10 語程度. 原則としてすべて小文字, 単数形にしてください.
- 略語や固有名詞由来の単語などは大文字を使用してください. (例 MHD, Alfvén wave)

## 2 投稿論文のカテゴリ

### 2.1 査読を行うもの

**研究論文** プラズマならびに核融合に関する上記の分野で学術上または技術上価値のある新しい研究成果を記述した原著であって, 他の刊行物に未発表なもの. 査読を行います. 序論の中で論文の歴史的背景と意義および結果の簡単な説明を一般的な読者でも理解できるように留意して書いてください.

**研究速報** 研究速報は, プラズマならびに核融合に関する上記の分野でのインパクトのある最新の研究報告を先取りし, 迅速に掲載することを目的とします. 当該研究分野へのインパクトのある研究報告であれば, 必ずしも議論が完結している必要はありません. 原則として 1 回の査読のみで掲載可否の判定を行います. 著者は所定の文章体裁に従った原稿を投稿し, 受理後には所定の電子ファイル形式で原稿を提出ください. 受理された論文は最短の場合で投稿から 30 日で掲載されるとともに, 本学会ウェブページにも最短の場合で投稿から 12 日で仮掲載されます. ウェブページ上では動画を掲載することも可能です. 原則として長さは刷り上がり 2 ページを上限とします. 著者が投稿後に発展させた同一課題の研究結果をまとめて本学会誌研究論文や英文原著論文誌「Plasma and Fusion Research」, その他の学術誌において改めて発表することを推奨します.

**レビュー論文 (投稿)** プラズマならびに核融合に関連して新しく発展しつつある分野, 重要なトピックス

に関して包括的な概観と将来の発展への展望を与えるものであって、単に論文等の紹介だけにとどまらず著者のオリジナルな視点を含んでいて未発表なもの。年会招待講演者の研究成果のレビューなども含まれます。研究論文に準ずる扱いをするため、査読を行います。

**研究・技術ノート（投稿）** プラズマならびに核融合に関連する分野での新しい学術または技術的な提案、計測器の開発、コンピュータ、パソコンのソフトの開発等の紹介等を行うもの。または、プラズマならびに核融合に関して技術的に重要あるいは有用な事項についての研究、調査、実験等の報告であって実際面で価値のあるもの。査読を行います。

## 2.2 査読ではなく閲読を行うもの

**プロジェクトレビュー** プラズマならびに核融合に関連して行われた個人や研究グループ、大学等の組織のプロジェクト研究の成果を紹介するものです。科学研究費等の補助金に支援された研究や大学評価等の成果報告が含まれます。原則として成果・評価が得られてから1年以内の報告とします。掲載の可否の決定は編集委員会で行いますが、内容に対する責任は著者が負います。長さは最大でも刷り上がり50ページを超えないことが求められます。

**研究最前線** プラズマならびに核融合に関連して新しい発展、急速に発展しつつある分野のトピックス、研究あるいは技術の動向、他分野との境界の問題等を投稿記事として解説、もしくは紹介するもの。すなわち投稿者によって企画され、まとめられた「解説」や「小特集」が想定されています。掲載の可否の決定は編集委員会で行いますが、内容に対する責任は著者が負います。

**研究・開発活動アピール** 研究グループ、最新研究活動、最新設備、新規開発製品などの紹介を行います。また、カラーの図・写真等とその説明文（以下カラーグラビアという）のみによる紹介も可能です。広告的と思われる内容が一部に含まれていても掲載可としますが、全体として研究開発活動に重点をおき、会員にとって有用な内容に限ります。掲載の可否の決定は編集委員会で行いますが、内容に対する責任は著者が負います。原則として刷り上がり2ページ以内し、カラーグラビアの場合、図または写真は3枚程度を限度とし、200字以内の説明文（caption）を付けてください。

**博士論文・修士論文紹介** プラズマならびに核融合に関連する分野の博士もしくは修士の学位を取得したばかりの新人研究者の学位論文の内容を紹介します。この欄への投稿は、学位取得後1年以内とします。この欄では英文による記事も可能です。著者である新人研究者の指導教員には、記事に署名を付け、内容に対する責任を負うことが求められます。原則として長さは刷り上がり3ページ以内とします。なお博士論文については、研究内容に関する詳細な報告を英文原著論文誌「Plasma and Fusion Research」に投稿することが推奨されます。

## 3 本文

本文における文章のガイドライン（用語の使用基準、単位・記号・数式、図表、引用）について本節で示します。

### 3.1 表記について

- 和文誌という観点から、外来語については不必要なカタカナ語の使用は避けてください。（例 ノンローカル→非局所 / イノベーティブ→革新的な / オポチュニティー→良い機会 / ヴァリディティ→妥当性）
- 日本語として定着していない場合はカッコ内に原語を付記してください。（例 ヴァリディティ (validity)）
- 略語を使用する場合、最初の記載は「正式名称（略語）」としてください。
- 単位は原則として国際単位系（SI）を使用してください。

### 3.2 数式について

- 数式は斜体/立体の区別に留意してください。
- すべての数式に番号を付記してください。

### 3.3 参考文献の文中番号について

- 参考文献は文中では [1] と番号をつけてください。2つの番号をつける場合には [2, 3] としてください。3つ以上の連続する番号をつける場合には [3-5]、3つ以上の連続しない番号をつける場合には [1, 3, 5] としてください。句読点は] の後につけてください。

### 3.4 図表・写真について

- 写真の解像度、図中の線の太さ、文字の大きさが適当か確認してください。（例 縮小しても見やすいか。グラフの軸の目盛、単位は明確か。モノクロ印刷でも問題ないか（カラー印刷希望時は除く）。）
- 他論文から引用している場合、原著論文を引用し、著者ご自身で転載許可手続きをお取り下さい。
- キャプションは日本語でまとめて別紙に書き、参考文献の次のページにつけてください。
- 刷り上がりページ数の目安として、和文 2700 字または図表 4 枚が 1 ページ相当です。

## 4 参考文献

- 著者名 雑誌名・巻（太字）・ページ・年の順で記述してください。
- 著者が3名以上の場合は省略し、その際は英文・和文とも第一著者のみ書き、後は“et al.”か「他」としてください。

## 謝辞

謝辞はここにまとめてください。

## 参考文献

- [1] M.D. Kruskal and R.M. Kulsrud, Phys. Fluids **1**, 265 (1994).
- [2] L. Spitzer, Jr., Physics of Fully Ionized Gases (Interscience Publishers, Inc., New York, 1959) p. 20.
- [3] S. Tanaka, to be published in Jpn. J. Appl. Phys. **22**, 999 (1993).
- [4] C. Giroud et al., Nucl. Fusion **52**, 063022 (2012).
- [5] 佐竹真介 他 : プラズマ・核融合学会誌 **77**, 573 (2001).